



## シンポジウム②

### 地域を耕す作業療法のチカラ

合同会社キングコング

代表社員 仲地 宗幸



私は自称「地域耕し人」として地元那覇市首里で小中PTA、スクールゾーン委員会、まちづくり協議会、自治会、青年会、子ども会等様々な地域活動に参画している。地域には、色々な背景や思想を持つ人がいるが、排除されることなくこの地で安心して生活を続けていける素地を作りたいという思いで地域活動に参加し、できるだけ目の細かい人的ネットワークを作ろうとしている。そう思われる出来事が2年前にあった。

私の近所で精神疾患が疑われる方がおり度々警察沙汰になる。地域では徐々に排除の力動が強まっていたが、一人の民生委員の関わりによりどうにか地域生活が継続している。私はその経過を見ながら、地域生活を維持できるかの最大要因は症状の有無や大小ではなく、関わっている人が近くにいるかどうかとその濃度であると気づいた。しかしそれだけでは状況の維持はできるが改善はしないので、保健所や市町村委託相談事業所等の介入が必要となる。今回は一住民としての関わりであったので個人情報保護の壁が厚く、うまく連携ができなかったという課題も見えてきた。

精神障害者にも対応する地域包括ケアシステムが機能するためには、徹底的に本人の味方になれる専門職がケアマネジメントと権利擁護の視点で関わる事と、本人を孤立させない関わりを継続する地域の力をつけることの2点が重要であると考える。人と作業と環境の相互作用を把握し介入できる作業療法士が求められている分野だ。当日は、実際の地域活動の様子から、地域を耕す作業療法の可能性についてフロアと共に考えていきたい。



### 【略歴】

沖縄県那覇市首里出身。高知と沖縄で10年の精神科病院に勤務。2011年イタリア・トリエステに行った事をきっかけに自身の脱医療化を決意。2012年より（株）NSPにて専務取締役として飲食店において障がい者雇用に取り組む。2020年合同会社キングコングを設立し代表に就任。現在に至る。地域では、小中PTA、校区まちづくり協議会、スクールゾーン委員会、自治会、青年会、子ども会等で活動中。

